

地球にecoとしよう!!
Ecoライフ大作戦
 ~ 053(ゼロごみ)ステージ2 ~

えこまる 詳細 減量対策課 ☎55-4266 http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/ から eco ライフ大作戦へ

ecoライフ大作戦では「資源環境」をテーマの一つとして、資源の有効利用に取り組んでいます。

古布・古着のリサイクル

家庭で不用になった衣類などの古布・古着は、綿50%以上であれば工業用ぞうきん(ウエス)にリサイクルできます。工業用ぞうきんは工場の機械整備、家具の磨き仕上げ、自動車整備の油ふき取りなどさまざまところで使用されます。ごみ減量と資源の再利用のため、古布・古着をリサイクルしましょう!

古布・古着の回収にご協力ください

市では、資源の有効利用のために平成21年10月9日から古布・古着の拠点回収を開始し、1カ月間で約600kgを回収しました。今後も市内3カ所で回収を行いますので皆さんのご協力をお願いします。

回収場所



市役所 1階
のぞみ出張所
沼ノ端リサイクルプラザ 1階

各回収場所には、ボックスが設置されていますので、こちらに入れてください!!

回収物について

回収できるもの

綿50%以上の布(洗濯したもの) ぶき取りに適した吸収性のあるもの タオル類、タオルケット、Yシャツ、Tシャツ、ポロシャツ、ブラウス、トレーナー、肌着、パジャマ、ベビー服、バスローブ、シーツ、布団カバーなど

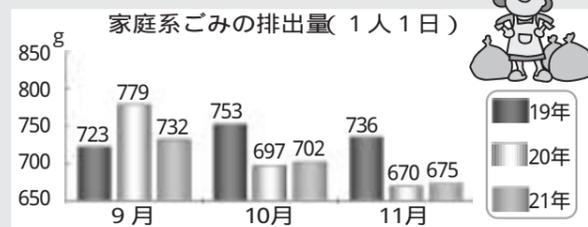
回収できないもの

厚手、硬めの布(スーツ、ジーパン、ジャンパー、コート、セーター、作業服、防寒服など) 50cm以下の小さい布(ハンカチ、靴下、パンツ、ネクタイ、帽子、ハギレなど) 中綿などが入った布(布団、座布団、ぬいぐるみ、枕など) 吸収性の悪いもの、裏地のあるもの(ジャージ、ズボン、スカート、毛布、じゅうたん、カーベット、毛糸類、バッグなど) ぬれたもの、汚れ・におい・カビの付いたもの

家庭系ごみ排出量11月の状況

詳細 清掃事業課 ☎55-4077

家庭系ごみの排出量は、対前年度比1人1日10gのごみの減量を目標にしています。



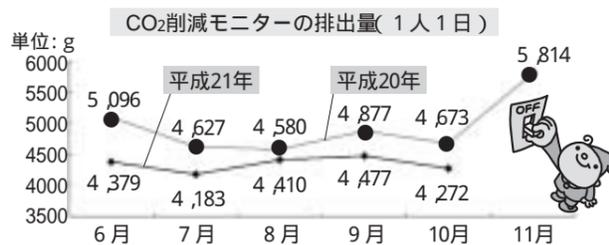
11月の1人1日の家庭系ごみの排出量は675gで、前年同月比較で残念ながら5gの増加でした。

1月の目標は629gです

CO₂削減モニター10月の実績

詳細 環境保全課 ☎36-8801

1人1日15kgのCO₂削減(対前年度比)を目指しています



削減量 717g | 444g | 170g | 400g | 401g

10月のモニターのCO₂平均排出量は4,272gで前年同月より、401gの削減となりました。



苦小牧市長 岩倉 博文

市民の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年(20年)は世界的に景気後退が広まる中、新型コロナウイルス感染症が全国的に流行するなど、経済や雇用不安に加え、健康対策への関心が高まった一年となりました。一方、国におきましては、8月の衆議院議員総選挙で政権が交代し、本市の選挙区から初の総理大臣が誕生するという歴史に残る年でもありました。

さて、本市におきましては、昨年は教育、健康支援、高齢者福祉、子育てなどの機能を集約した教育・福祉センターと新たな夜間・休日急病センター、青翔中学校やウトナイ湖の自然と調和した観光施設として、ウトナイ交流センター(道の駅ウトナイ湖)が完成し、市民生活の利便性の向上を図るとともに、本市の魅力づくりに努めました。

また、9月には高齢者のスポーツ、文化、福祉の総合的な祭典「ねんりんピック」の卓球・太極拳交流大会が開催され、全国から多くの方に伺っていただき、市民の皆様のご協力で大会を無事成功させることができました。

市政運営では、組織機構の見直しを行い、効率的で効果的な組織運営に取

「たくましい苦小牧」づくりに尽力します

り組むとともに、市役所庁舎内においては、相談室の拡充やフロアマネージャーの配置、授乳室の設置など、市民の皆様にご利用しやすい市役所を目指してまいりました。

本年は、市長就任からの最重要課題である財政健全化の集中取組期間最終年となります。行財政改革を一層推進し、本市の将来に向けて安定的で強固な財政基盤を確立するため、努力を惜しまない覚悟であります。また、本市産業構造の核となり、国際物流ネットワークの拠点を目指す苦小牧港と新千歳空港というダブルポートの基盤整備を促進して、地域経済の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

市の重点施策として取り組んでいる「エコライフ大作戦」につきましては、ごみ排出量削減とCO₂削減を目標に、まちぐるみで展開する大作戦として、今後とも市民の皆様のご協力を改めてお願いいたします。また、平成19年施行の「自治基本条例」に加え、昨年4月から「市民参加条例」を施行して推進している市民自治のまちづくりは、市民の皆様との情報共有を基本として、市民参加と協働による市政を積極的に目指してまいります。

本年は私にとって任期最終年となりますが、市民の皆様と一丸となって「たくましい苦小牧」づくりに最後まで尽力してまいります。これからも市政へのご支援とご協力をお願いいたしますとともに、市民の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のあいさついたします。

新年を迎えて

平成22年 元旦



苦小牧市議会議長 柳谷 昭次郎

市民の皆様の負託に応えるよう最大の努力をします

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと市議会を代表し、心からお慶び申し上げます。さて、昨年は8月の総選挙で政権が交代し、北海道から初めて総理大臣が誕生するという歴史的な年でありました。

これまで、国と地方の格差があらゆる面で広がり、夢や希望が縮む方向でありましたが、新政権では「地域主権」を前面に掲げ、国と地方の二重行政を排し、地方にできることは地方に委ねるといった新たな地方分権改革推進計画が本年スタートしようとしております。

まさに私も地方議会にとりましても自治体の無駄を監視する本来の役目を改めて確認しながら、自ら議会改革を進め、住民の行政参加を推進し進めることが重要であり、国の政策と連動してゆくことが大いに期待できるところであります。市議会としても、若い世代の生きがいとやりがいを持つ地域づくりが今後の国づくりにつながることを認識し、国民の視点に立った政権運営にさらに期待したいと思っております。

さて、本市におきまして、

は、昨年は東胆振地域における初期救急医療体制再整備のための夜間・休日急病センター新築、老人福祉や子育て支援などの機能を集約した教育・福祉センターの新設そして、市民の念願でありました道の駅の開設などの一方で、9月に行われた「ねんりんピック」では卓球・太極拳の種目で全国から多くの選手やお客様をお迎えし、ハスカップやホッキ貝など苦小牧の名産品をアピールするとともに、幅広い年齢層の市民との交流も図られ成功のうちに終了し明るい話題に終始しました。

一方、本道の社会経済情勢に目を転じますと、その後の景気回復には未だ厳しい状況にあり、少子高齢化社会を迎えることや地球規模の環境・エネルギー問題など、本市においても幅広い視点に立った行財政運営の構築や、地域の特性を生かした活性化づくりが喫緊の課題となっております。

本年は、議会としては任期最後の年度を迎えることとなり、市民生活に密着した行政課題も山積する中、依然として厳しい財政状況と景気動向ではあります。市民の皆様への負託に応えることができるよう、最大限の努力をしたいと思います。市議会への一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

結び、市民の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のあいさついたします。